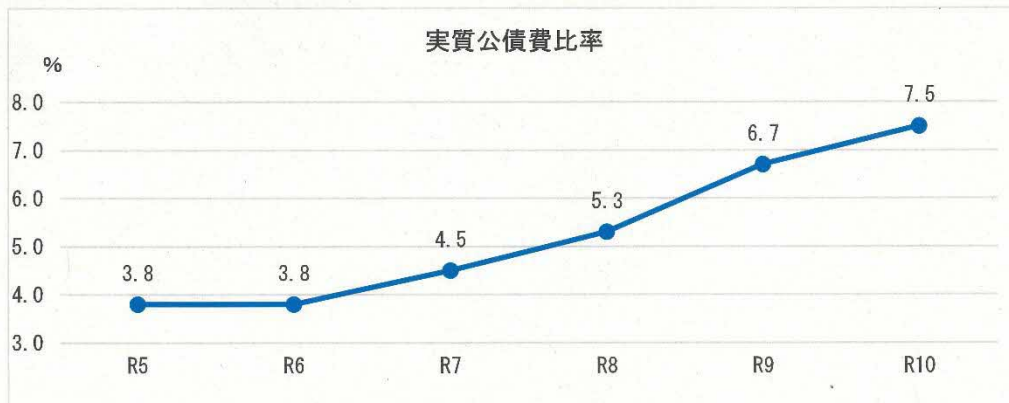
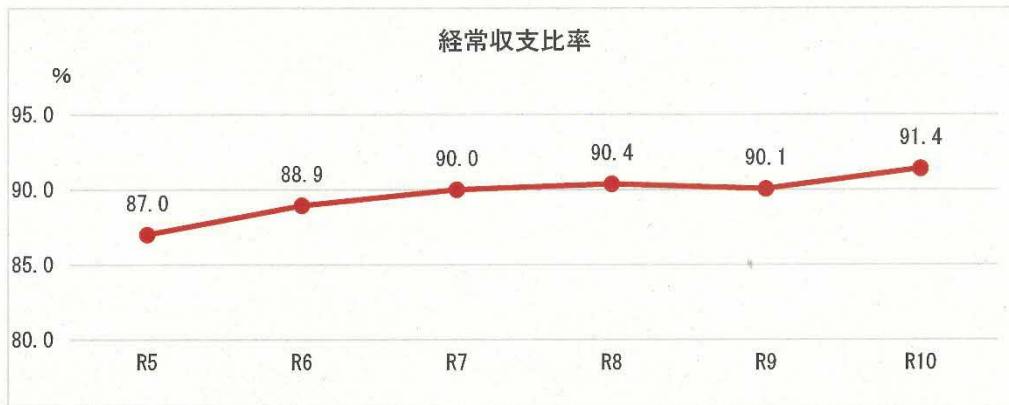


＜久喜市中期財政計画（令和6年度～令和10年度）（抜粋）＞

6 財政指標の見通し

経常収支比率は、令和5年度は公債費などの経常的な支出の減などにより減少を見込んでいる一方で、令和6年度以降は、税収の増加が見込み難い状況の中で扶助費や公債費などの経常的な支出の増が見込まれることから、増加傾向になるものと見込んでいます。

実質公債費比率は、公債費の増加の影響等により、令和7年度から増加傾向になるものと見込んでいます。



(単位：%)

指標名	R5	R6	R7	R8	R9	R10
経常収支比率	87.0	88.9	90.0	90.4	90.1	91.4
実質公債費比率	3.8	3.8	4.5	5.3	6.7	7.5

久喜市の財政状況と今後の見通し

＜令和6年度久喜市予算編成方針（抜粋）＞

本市の財政状況は、歳入については、令和4年度決算において市税が、固定資産税等の増により、前年度と比較して4億953万5千円の増（1.8%増）となった。今後の市税の見通しとしては、令和5年度は引き続き増となり、令和6年度以降は概ね同等程度で推移していくものと見込んでいる。

また、令和5年度の臨時財政対策債を含めた実質的な普通交付税は53億9,352万9千円であり、今後の見通しについては、公債費の増に合わせて徐々に増加していくものと見込んでいる。

一方、歳出については、令和4年度普通会計決算において人件費、扶助費及び公債費の義務的経費が、コロナ禍における市民生活支援として実施した子育て世帯への臨時特別給付金の給付等による扶助費の減などにより、前年度と比較して15億4,168万2千円の減（5.5%減）となった。今後の見通しとしては、臨時的なものを除き、少子化対策や高齢化などに伴う社会保障費の増に伴い増加していくものと見込んでいる。

また、令和5年度予算においては、大規模公共事業の進捗による投資的経費の増等を見込み、今後の見通しについても、公共施設の整備・改修に係る経費が大きく増加する見込みである。

扶助費の増や各種大規模公共事業の実施などにより、財政調整基金の残高は段階的に減少する一方、地方債残高は増加していくものと見込んでいる。そのような中でも、将来にわたり健全な財政運営を継続するため、基金残高を適切に確保するとともに、将来への負担を抑制していく必要がある。

このように、一般財源の大幅な増を見込むことが難しい一方で歳出増要因は数多いことから、令和6年度においては、令和5年度にも増して厳しい予算編成になるものと考えられる。

＜久喜市中期財政計画（令和6年度～令和10年度）（抜粋）＞

今後は、新たなごみ処理施設や（仮称）本多静六記念市民の森・緑の公園の整備費が一時的に増加するほか、扶助費、子育て支援のための費用、公債費等の増加も見込まれ、厳しい財政運営が続くことが想定されます。

しかし、時代の変化に伴う新しい住民ニーズに対応するとともに、社会情勢や経済状況の変化の影響にも柔軟に対応していくためには、健全性を保ちながら、財政運営を行っていく必要があります。

そのようなことから、財政構造の弾力性を示す経常収支比率などの財政指標を注視するとともに、不測の事態に対応できる財政調整基金等の財源の確保に努める必要があります。

また、公共施設等の整備や更新を行っていくためには、地方債を財源の一部とする必要があることから、市債残高と公債費の増加にも注意が必要です。